



学校だより (11月号)

自ら学び、心豊かでたくましい実践力をもった子どもの育成

太宰府市立水城西小学校

Tel 092-923-2559

文責 教頭

後期始業式、早速成長が見られました

本年度も半分が終わり、後期が始まりました。前期末には終業式、後期はじめには始業式を行いました。体育館の空調工事があっている関係で、体育館は使えない予定だったのですが、前倒して工事が進んだおかげで何とか体育館で集合して式を行うことができました。全校が集まるのは前期前半から久しぶりでしたが、集団として大きな成長が見られました。静かに体育館に入場し、場の雰囲気壊さないように待つ姿。校長先生の話をも、集中してうなずきながら聞く姿。終わった後も、静かに退場して教室に戻る姿。6年生が最初に入場して雰囲気をつくり、5年生が最初に退場して手本を見せてくれたことが、全校の集団としての成長につながったと思います。後期の子どもたちの成長が楽しみになりました。

実りの秋、「稲刈り」を行いました

水城西小学校伝統の米作りも、「もみまき」に始まって「田植え」を行い、夏の生長を過ぎ、「稲刈り」の時期を迎えました。米作りに関わってくださっている地域の方の話では、今年、水城西小学校の田んぼは大豊作とのこと。稲の株はしっかり太く、稲穂はたわわに実っていました。



今年の米作りを振り返ってみると、実は心配なことがい

くつもありました。「もみまき」の後、時季外れの猛暑と晴天が続き、苗が一部枯れかかっていたこと。「田植え」の際には、慣れていない子どもたちが植えた苗の本数が少なく、かなり弱々しい部分があったこと。温暖化の影響もあり、酷暑の日が続く夏であったことなど、米作りを進める上では、収穫量を不安視する状況が見られたのです。しかしながら、今年の米作りは大豊作の稲刈りを迎えることができたのです。

なぜ大豊作になったのか、これも米作りに関わってくださっている地域の方に聞きました。田植えの際に少ない本数で植えてあっても、稲は十分太く育っていくそうです。気を付けなければならないことは、その過程でタニシに食べられてしまうこと。そうならないように、タニシ対策をしっかりとすることが米作りを成功させるために大切なことのひとつだそうです。タニシ対策は、子どもたちではなかなか難しいものです。この話を聞き、地域の方が継続的に関わってくださっていることのありがたさが身に沁みました。

つまり、水城西小学校の米作りは、「子どもたちたちの活動」と、「保護者の支援」、

「地域の方々の協力」が繋がった結晶と言えます。さて、最後



の米作り行事は「もちつき」です。学校と保護者、地域の人みんなで作ったもち米を、学校と保護者、地域の人みんなでついて、素敵な時間を過ごしたいと考えています。「もちつき集会」は12月13日(土)です。是非学校に集い、一緒にもちつきを楽しみましょう。

11月の主な行事予定	12月の主な行事予定
3日（月）文化の日 4日（火）全校朝会 5日（水）就学時健康診断 6日（木）特別時制（職員研修のため） 7日（金）登校班班長会 委員会活動 8日（土）西っ子まつり 10日（月）読み聞かせ（2，4，5年） 12日（水）音楽鑑賞会 13日（木）クラブ活動（3年クラブ見学） 14日（金）秋の遠足（お弁当の日） 21日（金）3年1,2組社会科見学（消防署） 23日（日）勤労感謝の日 24日（月）振替休日 26日（水）3年3,4組社会科見学（消防署） 26日（水）放課後子ども教室 27日（木）特別時制（職員研修のため） 28日（金）代表委員会	1日（月）スクールカウンセラー来校 2日（火）登校班班長会 3日（水）学校運営協議会 4日（木）たんぽぽ学級校外学習 （久留米青少年科学館） 9日（火）・10日（水） 標準学力調査（国語・算数） 5日（金）委員会活動 13日（土）もちつき集会 15日（月）振替休日 18日（木）スクールカウンセラー来校 24日（水）全校朝会（後期前半終了） 25日（木）～1月7日（水）冬季休業



自分で選択し、自分で学ぶ…「学び方を学ぶ授業」に挑戦

近年、情報化やAI技術の台頭により、「知識をどれだけ知っているか」から「知識をいかに活用できるか」が重要になっています。それに伴い、教育に求められることも大きく変化しています。つまり、学校においては、一斉学習での知識注入型の授業から、自分なりの課題をもち、解決するための方法を選択し、知識を調べたり活用したりしながら、友だちと協力して解決することができる授業への転換が求められています。げんせん

以上のことを踏まえ、本年度、水城西小学校においては、「自由進度学習」という学習方法に挑戦しています。学年や子どもたちの実態によって異なりますが、学習する内容や順序、学習を進める方法、学習を深める相手など、子どもが自分で選択し、自分で学びを調整できるようになることをめざしています。教師にとっても初めて取り組む授業形態ですので、教師も学びながら、試行錯誤して授業づくりをしているところです。

最近、「リカレント教育」という言葉が聞かれるようになりました。「リカレント教育」とは、「学校教育を終えて社会に出てからも、仕事と学びを繰り返しながら、必要なスキルや知識を身につける教育」のことです。我々大人も、当然教師も、リカレント教育が大切です。子どものうちから、自分から学び、自分の学びをコントロールすることができる力を育てていきたいと思います。

